

安中総合学園高ダンス部に迎えられて入場するファイナリスト



高校生の部入賞

大野 愛美さん
小泉 佑弥さん

市立太田高3年の2人は、地元企業と高校生を介して「ビジネス・弁チャー」を提案。企業情報やQRコードに掲載したカードを介して、学校で販売する仕組みだ。群馬が好きで、地元就職を目指した大野さんは企業情報を集める難しさに直面。一方で、企業側も高校生の認知度を高めたいと考えて

弁当で知る地元企業

いることを知った。双方の思いをつなぐ鍵は高校生の弁当に関する悩みだった。企業からの広告収入で、低価格の弁当が提供できるため、生徒の保護者の負担も解消されることになる。講義で習った「無関係なものを含ませてみる」というビジネスの手法がヒント。「受賞は課題研究の授業で切磋琢磨した仲間のおかげ」と感謝した。



笠原寛県教育長(左)から表彰を受け取る大野さん(中央)と小泉さん

松永 晨人さん

群馬大医学部3年の松永晨人さんの22は患者と病院のオンラインマッチングサービス「Medizin(メディジン)」を提案した。「病院の診療料が多すぎて、どこにかかれればいいか分からない」と友人から相談を受けたことがきっかけだった。患者が症状についていくつもの質問に回答

大学生・専門学校生の部入賞

診療科選び 迷わずに

していくと、該当する診療科が示され、初診時でも迷わずに済む。診療後の患者が病院を評価できるシステムも盛り込み、医療の質の向上に結び付けられるとした。2年連続のファイナル進出。「リベンジで臨んだ。入賞できてうれしい」と喜びを爆発させた。「患者への質問を充実させ、まずは前橋市内から形をつくりたい」と力を込めた。



県中小企業団体中央会・吉田勝彦会長(左)から表彰を受ける松永さん

矢野 健太さん

焼きたてのパン再現。入賞の喜びをかみしめ、「事業をもっと成長させるため、人と資金が必要。社員や支援者を増やし、群馬を代表する企業になりたい」と夢を描いた。現在、県内を中心に関東のパン店15店と提携し、

焼きたてのパン再現

スタートアップ部門入賞



県商工会議所連合会・曾我孝之会長(左)から表彰を受ける矢野さん

池田 道成さん

病氣予防する新ジム。発表では「腕が上がり、エクササイズをやる一歩もあがり、ぐっと引きつけた。挑戦は4度目。『悔しい』思いは度々もしてきた。めっちゃうれしい」。開を目標と語った。経営するジムは、国際資格を持つパーソナルトレーナーや理学療法士、栄養士、介護の専門家、運動と医療のプロを集めた「ヘルスケアチーム」。

病氣予防する新ジム

イノベーション部門入賞



群馬経済同友会・斎藤一雄代表幹事(左)から表彰を受ける池田さん

大賞 中沢 陽さん



大賞を受賞し、山本一太知事(左)とガッツポーズで喜ぶ中沢さん

子豚圧死 ICTで防止

システム「ferkei saven(ファーケール・セブン)」を提案した。飼育者の心的負担や経済的な損失を軽減し、本県養豚業の発展につなげたいとの思いから考えた。プレゼンテーションでは農林水産省のデータを引用し、圧死する子豚が全国で年間153万頭に上り、約2260億円の利益が失われていると指摘。圧死に悩む自宅近くの農家の声を聞き、「なんとか改善したい」という思いが強まった。

「驚きとうれしさが入り交じって放心状態になってしまった。県立前橋高2年の中沢陽さん。『(16は、大賞発表のアンコールを聞く)と両手で顔を覆ってうずくまっていた。』高校生の部入賞で呼ばれずに諦めていただけに、トップに選ばれて万感の思いをかみしめた」。

「群馬イノベーションアワード(G I A)2019」のファイナルステージでは、16組による熱のこもった発表が繰り広げられた。さまざまな業界の課題解決や業務効率化などにつながる新規性が光った。

遠藤 春奈さん

「Mighty Konjac(こんにやく工房) しょう」(沼田市)の製造部門責任者、遠藤春奈さん(41)はこんにやくのイメージを一新。女性の視点を生かし、「かわいい」をテーマにカラフルなスイーツを開発した。米国で販売して大人気だったとし、さらなる海外展開の構想を発表。部門賞と、新設された関東経済産業局長賞をダブル受賞した。

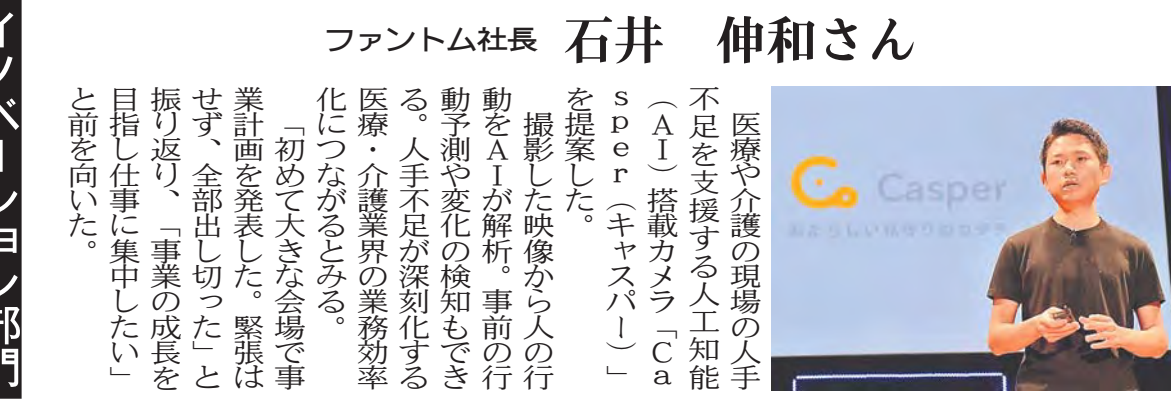
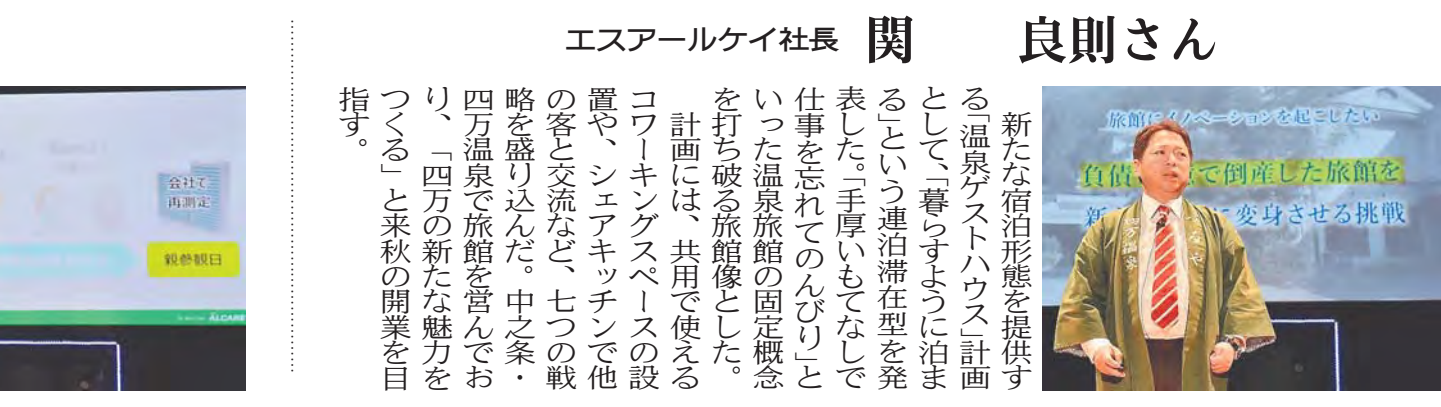
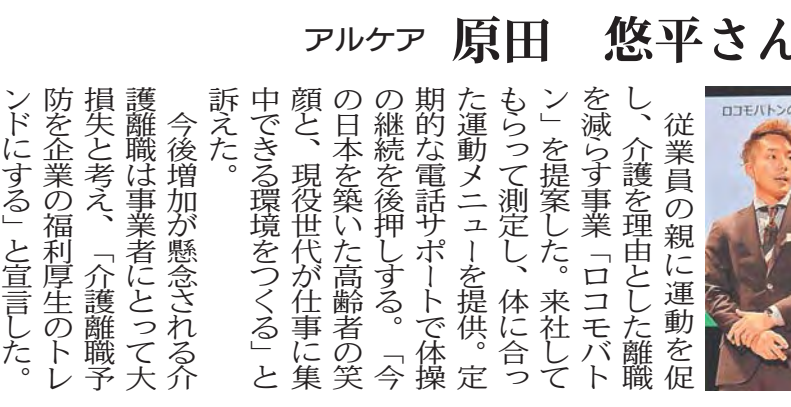
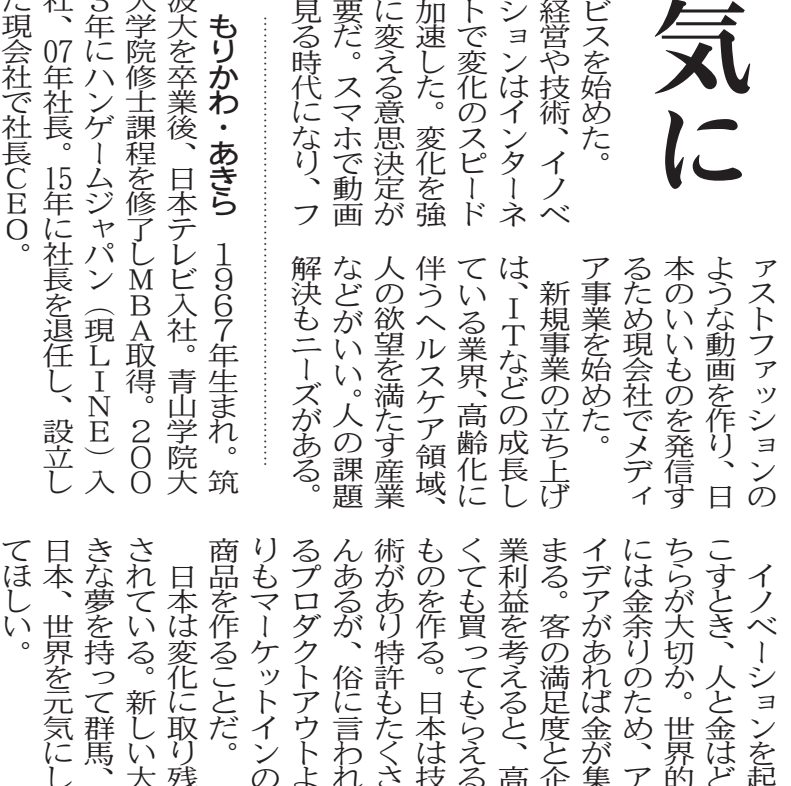
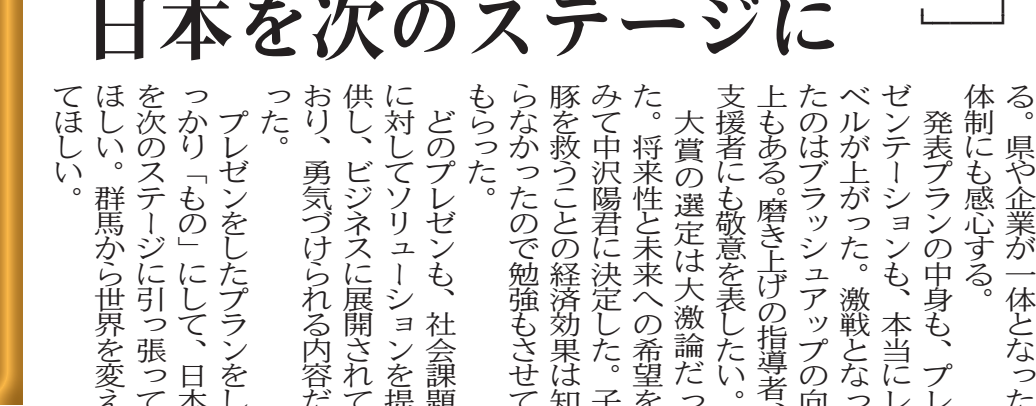
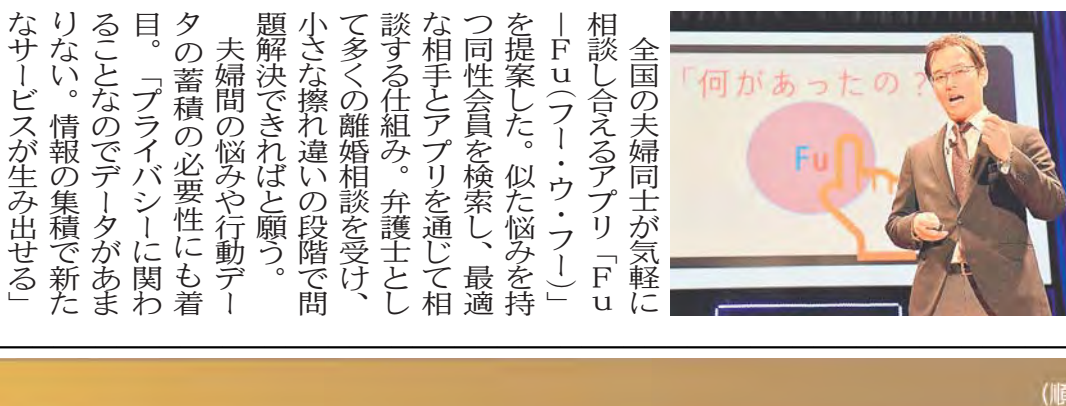
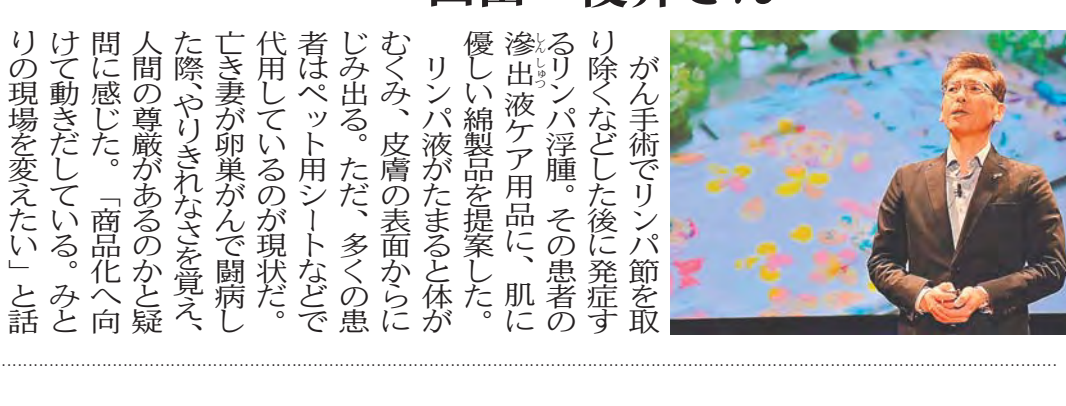
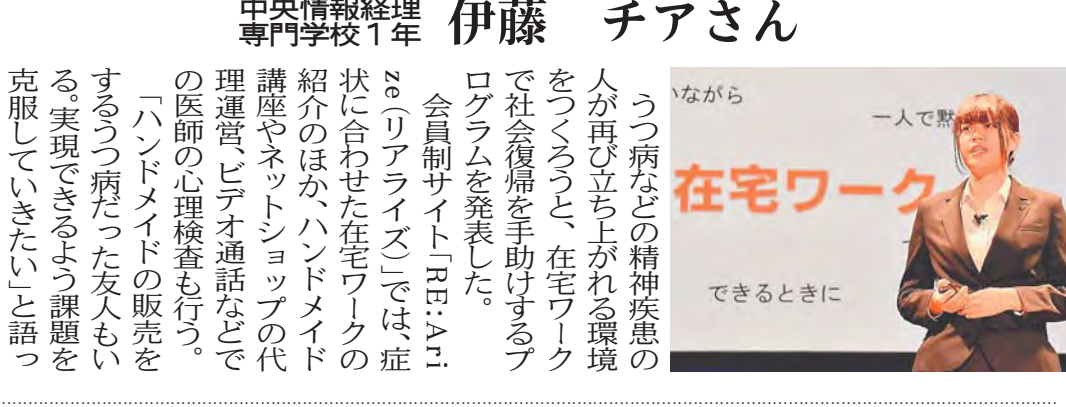
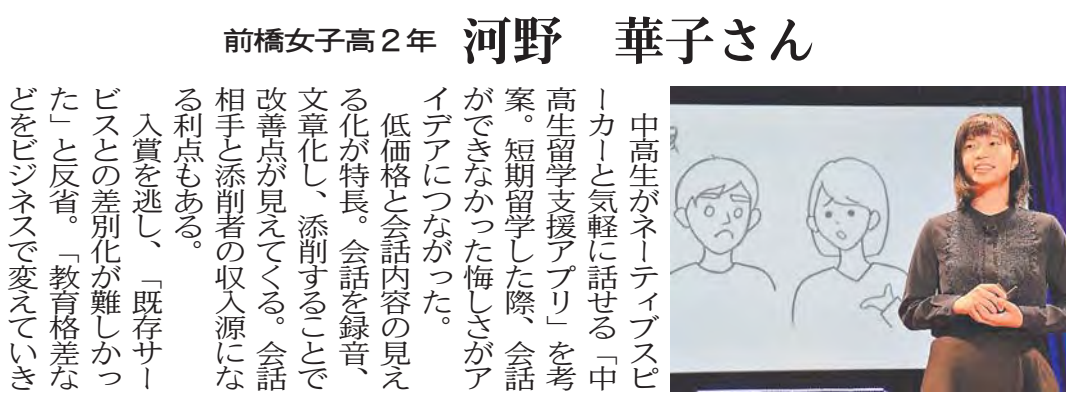
こんにやくを世界に

014年に伯父の工房を継いだ。これまでの地味なイメージを変えようと奔走した。原料を群馬から輸出し、現地で製造販売することを提案。それにより、質の高いこんにやくを提供できるとした。「海外には他国産の安価な製品が広まっている。日本のおいしいこんにやくを海外に届けるにはこの方法がベスト」と自信をのぞかせる。群馬の食材、食文化を世界に発信しており、地域活性化にもつながる点が高く評価された。「米国だけでなく、欧州、アジアと世界中にこんにやくを広めたい」と力を込めた。



山本龍前橋市長(左)から表彰を受ける遠藤さん

16組の革新的プラン集結



中沢さん(高橋前)大賞

16組が独創プラン

起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード(GIA)2019」(上毛新聞社主催、田中仁財団共催)のファイナルステージが7日、前橋市のヤマダグリーンロード前橋で開かれた。最終審査に臨んだ16組が社会課題を解決する独創的な事業プランなどを発表。子豚の圧死を防ぐ仕組みを提案した前橋高2年の中沢陽さん(16)が最高賞

の大賞に輝いた。7回目の今回は過去最多の428件の応募があり、1次、2次審査を通過したファイナリストが登壇。慶応大総合政策学部の国領二郎教授ら7人が審査した。ビジネスプラン部門は、高校生の部で市立太田高3年の大野愛美さん(17)と小泉佑弥さん(17)、大学生専門学校生の部で群馬大3年の松永農人さん(22)、一般

の部でこんにやく工房迎しよの遠藤春奈さん(41)がそれぞれ入賞。スタートアップ部門はパンフォーユーの矢野健太社長(30)、イノベーション部門はじぶんカンパニーの池田道成社長(27)が入賞した。初めて設けた関東経済産業局長賞は遠藤さんがダブル受賞した。

表彰式後の交流会で、実行委員長の前中仁・ジンスホールディングスCEOは「群馬県が熱い地域になるため、みんなで『出る杭』を応援しましょう」とあいさつした。

会場では、「LINE」の元社長で動画配信を手掛け



子豚の圧死を防ぐ仕組みを提案する中沢さん

来年はステージに



ファイナリストに拍手を送る高校生ら

高校生ら発表に刺激

「来年はあのステージに」「同年代とは思えないレベル」。7日に「群馬イノベーションアワード(GIA)2019」のファイナルステージが開催されたヤマダグリーンロード代とは思えないレベル。7日に「群馬イノベーションアワード(GIA)2019」のファイナルステージが開催された。前橋女高2年で新聞部の宮崎茜さん(17)は熱心に写真撮りながら観覧。「同じ高校生なのに社会問題に対して積極的に動いているすごい。この熱量を新聞で伝えたい」と話した。友人が登壇した前橋商業高3年の北裕介さん(18)は「内容も練られていて、堂々と発表していた」と晴れ姿に目を見張った。高校生の部で入賞した大野愛美さんの家族は祈るようにステージを見守った。母親の亜紀子さん(40)は「家で遅くまで練習していた。やれるだけのことはやったので頑張った」とエールを送り、弟の蒼真君(9)は「お姉ちゃんはおつこよかった。自分もいつかやってみたい」と憧れた。自身も事業プランを応募した共愛学園前橋国際大3年の岡美紗子さん(21)は「発表した友人はキラキラしていた。みんなで応援していたので、練習の成果が発揮できて良かった」と同級生の活躍を喜んだ。大賞のプレゼンターを務めた山本一太知事は発表レベルが年々上がっているとし、「今年も発表者の熱い思いが伝わってきた。高校生が頑張っていて、群馬の将来にとって頼もしい」と参加者の未来に期待を掛けた。

安中総合学園高ダンス部

ランウエー仕様 迫力の踊り披露

安中総合学園高ダンス部員46人はダンスパフォーマンス4作品で会場を盛り上げた。人気バンド、サンボマスターの「できこないをやらんくちや」でオープニングを飾り、観客席に突き出すランウエー型舞台を

に乗せた最後のダンスは、1万回だめでも1万1回目は何が変わるかもしれないという歌詞にイノベーションへの応援メッセージを込め、GIAの舞台にふさわしい選曲で締めくくった。新部長に就いた2年の三原玲奈さん(17)は「ランウエー仕様の作品に変えるのに苦労したが、ファイナリストの背中を押せるような作品にできたと思う」と充実感あふれる表情を見せた。

「群馬イノベーションアワード(GIA)2019」ファイナルステージ会場では、今年高校ダンス部日本一に輝いた安中総合学園高生によるパフォーマンスや、雑貨や飲食を販売する「群馬イノベーションマーケット」で来場者を楽しませた。



切れるダンスを披露する高校生

個人事業主ら44ブース 自慢の一品PR



飲食や雑貨を販売した群馬イノベーションマーケット

会場に熱気と躍動

牛乳卸売業の「ティールイフ」(高崎市下佐野町)は上州牛の串焼きなどを販売。従業員の田島嘉信さん(64)は「地元ならではの食材を味わってほしい」と話した。利根実業高(沼田市栄町)の生徒たちは利根沼田のブランド米6種類を詰め合わせた「戦国米セット」を売り出した。体験コーナーも設けられた。家族で訪れた前橋市箱田町の会社員、兵藤恵介さん(31)は、「ミニチュアグズを製造販売する「ミニチュアSeakrats」でタピオカを模したストラップづくりに挑戦。「不器用な自分でも簡単に作れた」と笑顔で話した。